

「神である主に出会ったパウロ」

～自分が救い出されたことを語る～

「こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤのすべてで守られ、どんどん増え広がっていきました。そして、心から主を恐れつつ、聖霊に励まされて前進し続けました。」
使徒行伝9章31節[リビングバイブル]

パウロはユダヤ人たちによって暴行を受け、殺されそうになっていたところ、ローマ兵たちに助けられ、奇跡的に助かりました。そして、そのままその場を立ち去ることもできましたが、自分の使命を自覚して、奮起して立ち上がりました。超人的な強さだと思います。司令官である百卒長の言葉にも冷静に的確に答えています。

そこでパウロが語ったメッセージは、自分自身の証でした。主との出会い、人生のターニングポイントの出来事でした。パリサイ人でもあった彼は学者でもありましたから、小難しいことも雄弁に語る事ができたでしょうが、そうではなく、神である主が自分自身にはっきりと現れて下さった出来事についてそのまま語り出しました。これは私たちに対する励ましでもあります。何度繰り返しになろうとも、自分自身の証を語るべきであるということです。なぜならそれは遠い過去のことではなく、今も共にいて励まし続けているお方について感謝を込めて、栄光をお捧げる気持ちで語ることもあるということです。

以前にもニューヨークで子どもたちのためにその人生をささげているビル・ウィルソン先生のことをご紹介させていただきましたが、彼は少年時代に両親に捨てられ、一人ぼっちで母親を三日間待っていました。いよいよ、お母さんが戻らないでかわいそうな少年に、一人のクリスチャン男性が声を掛けました。そして、夏のバイブルキャンプに彼を連れて行ってくれました。そこで、何の将来の希望もない人生だったはずのビル少年が、イエス様に出会うことを通して大いなる希望と使命に生きる生涯へと変えられました！一人の少年の人生が180度変えられたのは、一人の名もない親切なクリスチャン男性を通してでした。そして、今そのビル先生を通して何十万という子供たちの人生が変えられているのです。

私たちの人生も同様ではないでしょうか？私たちの信仰が人の人生を変え、世界を変えていくことを決して忘れてはいけません。またそれはそんなに難しいことではないのです。自分自身が神様の愛に感動し、そのお方を愛し、信頼して歩んでいるだけで良いのです。「あなたがたは神の畑である」とパウロは語っていますが、その畑である私たちに信仰の種を蒔いてくださるのは主ご自身です。この主を信じて、必ずその信仰の芽が出て、実を結んでいくと信じていきましょう。そのためには、いつも主を恐れて、聖霊に励まされて歩むこと(使徒9章)が大切です。このようにして共に信仰の手を取り合って祈る教会で、思う存分、主に近づいて力を頂いていきましょう！主はあなたと共に働いておられます！